YASUHARA CHEMICAL
ヤスハラケミカル株式会社
自然と暮らしを
科学でつなぐ会社です。
〒726-8632 広島県府中市高木町1080番地
TEL：0847-45-3530（代表）　FAX：0847-45-8639
HP：http://www.yschem.co.jp/
事業内容・主な用途
◉ テルペン樹脂
［テルペン系樹脂］
◉ 化成品
［合成香料原料、テルペン溶剤、ワックス］
◉ ホットメルト接着剤
［ホットメルト接着剤］
◉ ラミネートフィルム
［光沢ラミネートフィルム］
東京事務所　TEL：03-5159-3411
大阪事務所　TEL：06-6346-1578

府中から全国へ―

広島県府中市

広島県府中市は、人口約4万人の小規模な市だが、自動車部品や金属部品、工作機器、化学品、木工などモノづくりが盛んな地域だ。近年では、「ふちゅう大学誘致の会」（広島県府中市、井上達也会長、0847・45・2648）が、飛行ロボット（ドローン）の活用や関連大学の誘致により、街の活性化に役立てようとしている。一方、地域住民の移動手段の確保も課題になるため、同市はモネ・テクノロジーズ（東京都港区）と連携協定を結び、先端技術を活用した次世代モビリティーサービスの実証実験を始めている。

ふちゅう大学誘致の会

ドローン活用で活性化推進

ふちゅう大学誘致の会は、同市にある「道の駅びんご府中」内にドローンをテーマとしたモノづくり工房「スリーディーラボ（DD．Labo）」を8月に開設した。道の駅にこうしたモノづくりの工房があること自体が珍しい。

道の駅にはレストラン、アンテナショップ、野菜などを販売する産直市場がある。府中家具の産地であり、道の駅の建物にも木材が多く使用されているのが特徴だ。同ラボは、その中の交流テラスを活用している。ふちゅう大学誘致の会が府中市の補助金500万円を用いて機器などを整備、運営している。ラボは広さ約60平方㍍。うち約20平方㍍のスペースに3Dプリンター、卓上の工作機械や手動の射出成形機、3Dスキャナー、レーザー加工機などを設置しており、設備も充実している。

定員10―20人程度。ラボの営業は平日16―20時（水曜休み）、土日祝は10―20時。ドローンの部品製作、マイクロドローンを飛ばすサークル活動や土曜、日曜、祝日には、3Dペンを使って市販の小型ドローンに装飾をつけたり、ドローンの操縦体験会、各種のワークショップを行っている。

市販のドローンを組み立てるワークショップでは、プロペラの向きが違うと飛行できないなど、ドローンが飛行する仕組みも学べるという。

月額会員は材料費別で機器は使い放題。月額8000円、学生4000円、企業会員3万円。非会員は1時間1000円で利用できる（材料費、機器説明、サポートを含む）。

㊤スリーディーラボが入る、道の駅びんご府中の交流テラス㊦スリーディーラボは機器・設備も充実する

スリーディーラボ活動

交流スペースにレースコース

スリーディーラボでは火曜日に、交流スペースを活用してマイクロドローンを飛ばす活動が行われてる。会社帰りの大人から、高校生らが参加する、15人ほどのサークル活動という。

室内にはマイクロドローンを使うレースのコースを作っている。ドローンに搭載されたカメラの映像が、操縦者はFPVゴーグルに送信され、映し出される映像を見ながら操縦する。FPVゴーグルを使用するには、アマチュア無線技士免許4級以上が必要で、ドローンを飛ばす前に無線局開局が必要になる。

マイクロドローンレースは、モータースポーツとして位置付けられている。またeスポーツのように、ドローンのカメラ映像が、設置したモニターに写し出せるため観客も楽しめる。

サークルでは岡山で開催されるドローンレースへの参加や各地のドローンの愛好家、競技者とも交流を進めている。府中市のお寺である釈迦院では、19年1月には、マイクロドローンのレースを開催した。釈迦院住職の藤井昭光さんは、ふちゅう大学誘致の会のドローン部長で、マイクロドローンのレーサーでもある。

スリーディーラボでは、今後、3Dプリンターで出力するデータを作成するため、3D―CADを使った講座も行う計画。ふちゅう大学誘致の会の山路大介エアフィールド部会長は「20年にも月2回3カ月の6回コースを実施するため、準備を進めている」と話す。

このほかにも、同ラボにあるレーザー加工機は、さまざまな使い方ができる。例えば、アクリル板に表彰状を作製できる。また、木の板を使ったパズルの作製のほか、デニム生地に文字を入れることも可能だ。

▲スリーディーラボ内を飛行中のマイクロドローン

広島県ドローン協会　パイロットを育成

広島県ドローン協会（広島県福山市、上杉繁樹会長、084・933 3（ウエスギ内））が2019年1月に設立された。活動の準備期間を経て、10月には発足記念式典を同市内で開いた。同日には、協会は、ふちゅう大学誘致の会、釈迦院（広島県府中市）、ドローン講習団体のドローンインターナショナルアソシエーション（東京都港区）など合計七つの団体や大学、高校などと連携協定（写真）を結んだ。今後、同協会は高校での講義を実施し、ドローンパイロットの育成に取り組むほか、年内には親子向けのドローン教室を開く予定。自治体や警察、消防関係と企業、個人との連携を構築しておき、災害時などにドローンを活用した情報収集で貢献できる体制づくりを目指す。

19年度からは民間団体が発行するパイロット認定証取得を視野に入れ、広島県立府中東高校でドローンパイロット育成講座を開講している。ドローン普及に伴い、事故も増えており、ドローン活用時のマナーの醸成など「安全文化を作りたい」（上杉会長）という。

同協会の理事は上杉会長を含め5人で、無人航空機メーカーのエールリンクス（広島県府中市）の北川慶祐社長も理事を務めている。

次世代交通実証

AI活用し配車予約

広島県府中市と、トヨタ自動車とソフトバンクの共同出資会社であるモネ・テクノロジーズ（東京都港区）は、先端技術を活用し次世代交通サービスの実証実験などに取り組む連携協定を締結した。9月には同市の協和地区で実証実験を開始、モネのAI（人工知能）を活用した予約配車システムを活用する。予約した利用者の自宅付近に設定された60カ所の乗り場所に乗り合いタクシーが行き、路線バスの停留所や公民館などに利用者を送る。

実験では同地区での移動手段の確保、地域の移動ニーズの把握、路線バスの利用者増につなげ、AIを活用した予約配車システムの有効性を検証する。

同地区住民の約3割に当たる約400人が利用登録した。期間は12月27日まで、週2回実施する。1日の往路・復路は各4便。料金は1乗車が中学生以上400円。利用者はスマートフォンのアプリ（応用ソフト）や電話で利用の前日にタクシー会社に予約する仕組みだ。

また2020年1月頃には、同市中須地区でも実証実験を行う予定。9月の実証実験と同様に、モネのAI用いた予約配車システムを活用する。利用者はタクシー会社に乗り合いタクシーを予約して、自宅付近から商業施設、駅、病院などの生活拠点に送迎される仕組み。運行は月―金曜日の週5日間実施される仕組み。

9月に行った連携協定の締結式で、府中市の小野申人市長は「遠くない将来に来るであろうMaaS（乗り物のサービス化）、自動運転に向けての一歩になる」と連携に期待を寄せた。

主要各社の紹介〈順不同〉

ヤスハラケミカル

ヤスハラケミカルは、従来利用されていなかったものの原料としての可能性を引き出し、「新たな価値を創造する」精神の下、高付加価値な製品を提供している。

粘着付与樹脂のテルペン樹脂が主力製品。テルペン樹脂は天然ゴムなどの高分子材料に添加する事でさまざまな特性を引き出す。接着剤や粘着剤の製造に欠かせない存在で、同社は「テルペン化学製品メーカー」として世界的に高い評価を得ている。

同社は「自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、産業と生活の向上につながる活動領域の拡大」を基本理念に、テルペン化学で培った創造と挑戦の精神を持って、自然界の無限の可能性を引き出し、産業への高品質・高付加価値品の安定供給を通して、持続可能な開発目標の達成に貢献し続ける。

本社事務所（広島県府中市）

北川鉄工所

北川鉄工所は金属素形材、産業機械、工作機器の3分野が事業の柱。金属素形材事業は自動車や建設・農業機械の部品用として使われる。2019年11月に本部機能を下川辺工場（広島県府中市）から福山工場（同福山市）に移転させ、自動車用鋳鉄部品の鋳造から加工までの一貫生産体制を強化する。

産業機械事業はビル建設用タワークレーン、環境・コンクリートなど各種プラントや自走式立体駐車場を扱う。新たにダム建設用タワークレーンを開発し、19年7月より納入を開始した。

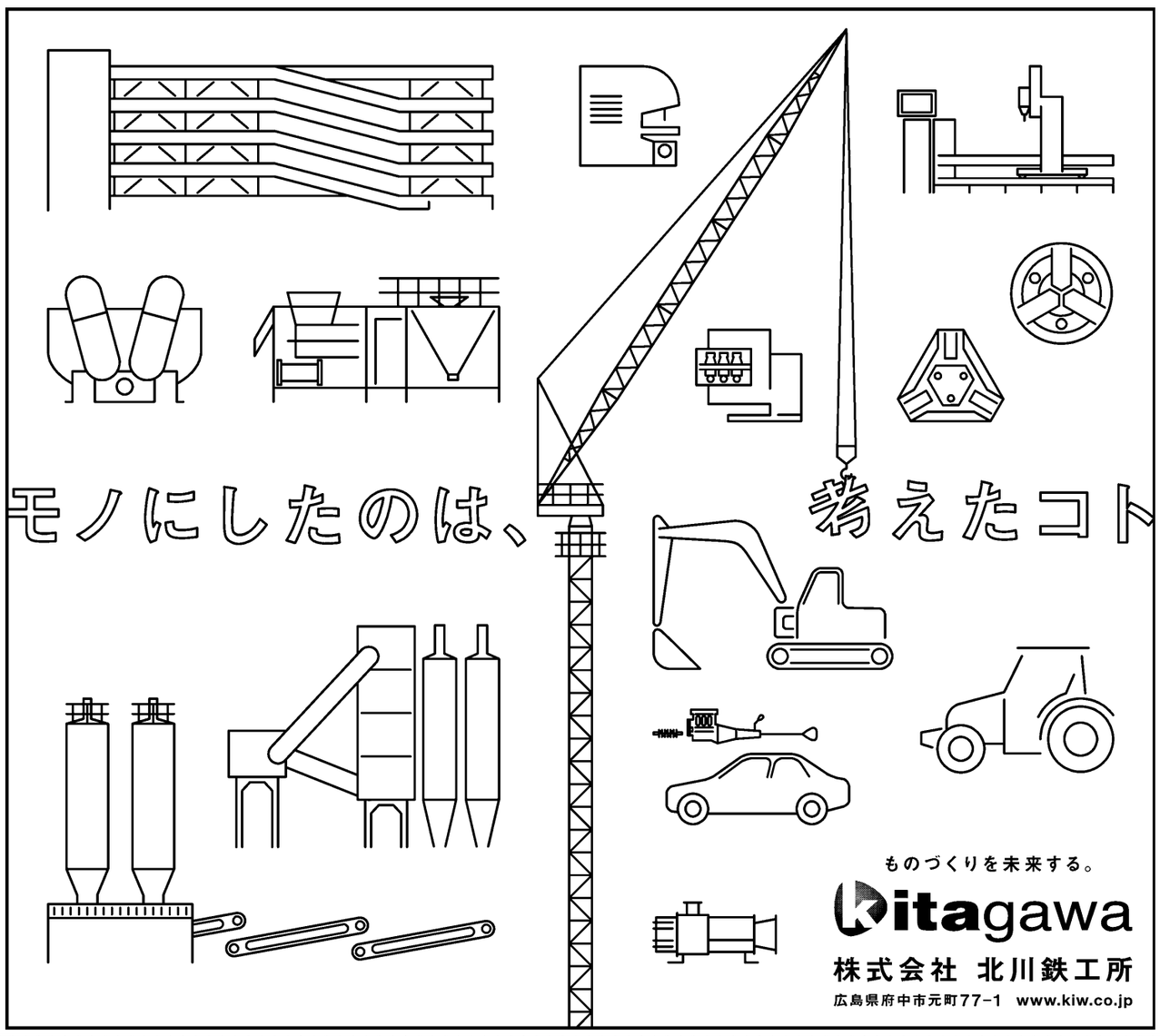
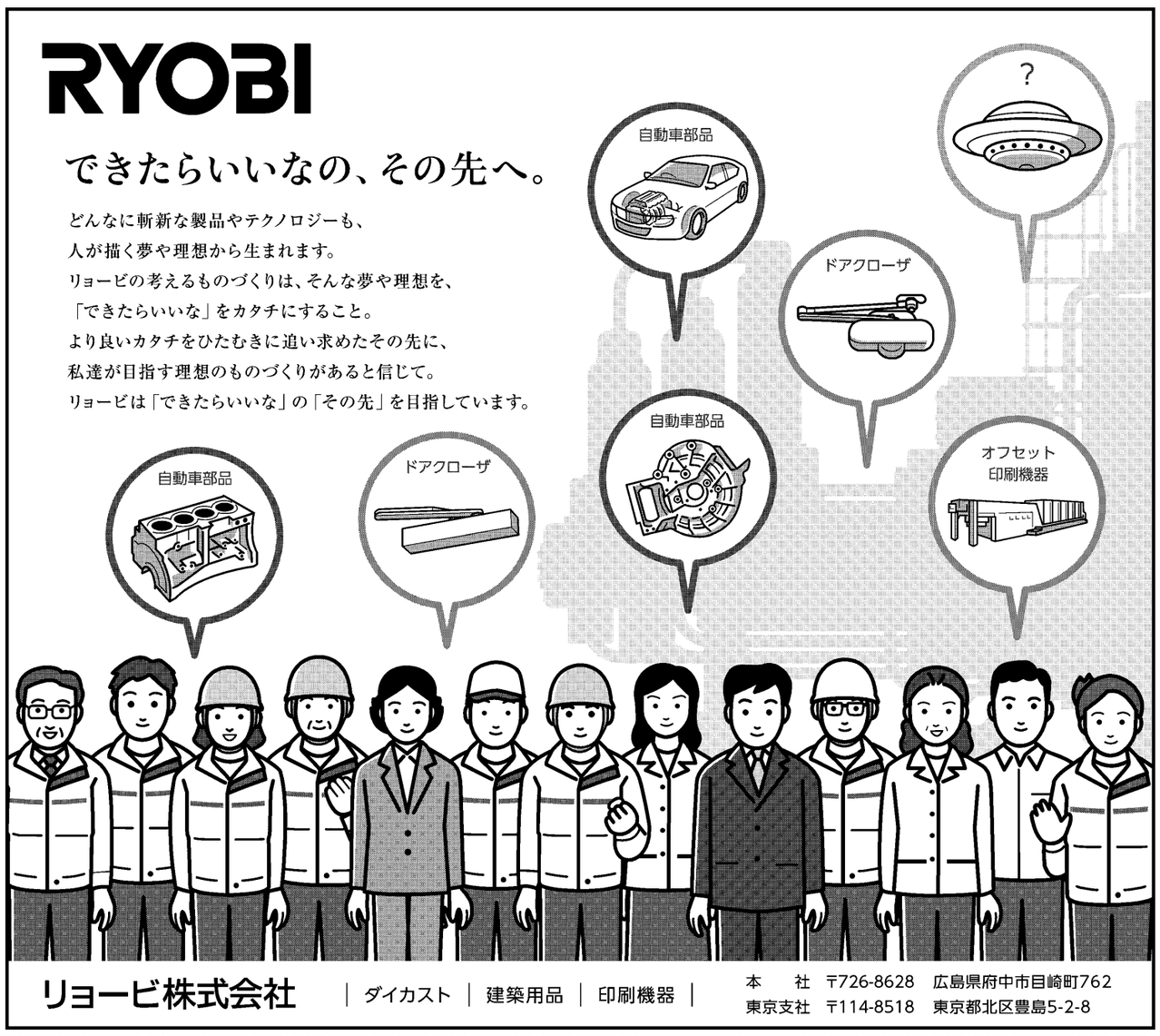
工作機器事業は旋盤の主軸に装着して加工対象物（ワーク）を把握するチャックなどが主力。その最新製品の性能が評価され、精密工学会中四国支部技術賞など各賞を受賞した。今後は工作機械の需要増加が見込まれるインドに生産拠点を新設し、ビジネスの拡大を図る。新規事業分野では主に医療分野向け製品を手がけている。

BRチャック

リョービ

リョービは、自動車メーカーに高品質な製品を提供する世界トップクラスのダイカストメーカー。2019年3月から新しいコーポレートメッセージ「できたらいいなの、その先へ。」を展開している。このメッセージには、社員一人一人が「お客さまや社会の理想を実現するだけでなく、その上を目指し、挑戦する」という思いが込められている。

18年、新しいメッセージを策定するため、若手と中堅社員12人でプロジェクトチームを結成。まず、アンケートやインタビューで社員の思いを広く深く集めた。さらに、企業理念や会社の歴史など多くの要素の中から「支える」「まじめ」「挑戦」というキーワードを抽出。これらのキーワードを基に熟考を重ねて、「できたらいいなの、その先へ。」が生まれた。

同社はマツダスタジアムのバックネットフェンス、JR福山駅や広島空港などの広告看板でも新しいメッセージを展開し、浸透を図っている。

リョービ本社（広島県府中市）